カパンパンガン語の複合前置詞句

Complex prepositional phrases in Kapampangan

北野　浩章
Hiroaki Kitano

愛知教育大学
Aichi University of Education

Abstract: The purpose of this paper is to give a succinct summary of complex prepositional phrases in Kapampangan, a Philippine language of Central Luzon. After reviewing the previous descriptions of the prepositional phrases, this study proposes a classification of these phrases into two broad types. The first group includes those phrases primarily functioning as adjuncts. The second group includes those functioning as oblique arguments, headed by oblique determiners, which are locative/spatial expressions.

Key words: Kapampangan, prepositional phrases, complex phrases, oblique, description

１．はじめに

本論文では、フィリピン諸語の一つであるカパンパンガン語（カパンパガン語とも書く、Kapampangan）の複合前置詞句（complex prepositional phrases）を記述する。これは、カパンパンガン語の文法において、構文論的にも意味論的にも一つのカテゴリーを形成している。これまでまとまった記述はされていないため、筆者の調査で判明したことをここで報告する。

２．カパンパンガン語

カパンパンガン語は、フィリピン共和国ルソン島の中部、マニラ首都圏のすぐ北に位置するパンパンガ（Pampanga）州とその周辺で話されている言語である。多言語使用が当たり前のフィリピンで話者数を正確に知ることは難しいが、100万人から200万人ほどの話者がいると考えられる。

カパンパンガン語では、次の音素を認めることができる。

子音　/p, b, t, d, k, g, ʔ, s, h, tʃ, dʒ, m, n, ŋ, l, r, w, y/

母音　/i, e, a, o, u/

基本的な文構造は、述語が先行するものである。格標示は能格・絶対格型と見なせる。他のフィリピン諸語に見られるヴォイス体系（フォーカス・システム）を有する。

以下で、いくつかの構文の例を挙げて簡単に説明する。次の文はActor Voice（行為者態）の文であり、動詞はヴォイス、アスペクトを標示する。動作主は絶対格（absolutive）をとる。

(1) *Mamangan* *ya.*
eat.IMPF.AV ABS.3SG
'He/She is eating.'

Actor Voiceの文であっても、動詞の被動者（patient）に相当するものをとることができるが、格標示はされず、リンカー（linker）のみで結ばれる。

(2) *Mamangan* *ya=ng* *manuk.*
eat.IMPF.AV ABS.3SG=LK chicken
'He/She is eating chicken.'

次はPatient Voice（被動者態）の例である。動詞はPatient Voice特有の形態をとる。能格および絶対格の格標示がされる。次の二つの例では、参与者は*na*（３人称単数・能格 ergative）と*ya*（３人称単数・絶対格）で、融合した*ne*という形で現れる。*ya*と同一指示の名詞句*ing manuk*もある。カパンパンガン語では通常、名詞句が有形でも同一指示の代名詞を省略することはできない。いわば代名詞が一致要素のように用いられる。

(3) *Kakanan* *ne* *ing* *manuk.*
eat.PERF.PV ERG.3SG+ABS.3SG DET.SPEC.SG chicken
'He/She is eating the chicken.'

(4) *Kakanan* *ne.*
eat.PERF.PV ERG.3SG+ABS.3SG
'He/She is eating it.'

このように、能格と絶対格は中核的な文法関係に用いられるが、それ以外に、能格には属格の用法もある（次例(5)の*ku*を参照）。基本的な人称代名詞は以下の通りである。

表１：人称代名詞（斜格以外は第二位置の接語）

	能格 ERGATIVE	絶対格 ABSOLUTIVE	斜格 OBLIQUE
1SG	*ku*	*ku*	*kanáku, káku*
2SG	*mu*	*ka*	*kéka*
3SG	*na*	*ya*	*kaya*
1DU.INC	*ta*	*kata*	*kékata*
1PL.INC	*támu, tá*	*katámu, támu, katá, tá*	*kékatámu, kékatá*
1PL.EX	*mi*	*kami, ke*	*kékami, kéke*
2PL	*yu*	*kayu, ko*	*kékayu, kéko*
3PL	*da/ra*	*la*	*karéla*

次は、斜格（oblique）の用法である。斜格は、中核的な文法関係以外のさまざまなものを表す。以下の例のように、斜格は、斜格限定詞に導かれる名詞句や、斜格代名詞の形で現れる。

(5) *Atiu* *ya* ***king*** ***bale*** ***ku*** *i* *Maria.*
EXIST ABS.3SG DET.OBL.SG house ERG.1SG DET.SPEC.SG Maria
'Maria is at my house.'

(6) *Kinawe* *ya* ***king*** ***ilog*** *napun.*
swim.PERF.AV ABS.3SG DET.OBL.SG river yesterday
'He swam in the river yesterday.'

(7) *Istriktu* *ya* ***karing*** ***disipulos*** ***na***.
strict ABS.3SG DET.OBL.PL pupil ERG.3SG
'He is strict with his pupils.'

(8) *Mimwa* *ya* ***kanaku***.
get.angry.PERF.AV ABS.3SG OBL.1SG
'He got angry with me.'

(9) *Sinabi* *ke* ***karela***.
say.PERF.PV ERG.1SG+ABS.3SG OBL.3PL
'I told it to them.'

限定詞は、格・数・普通名詞か人名か、によって形式が変わる。ただし、絶対格の限定詞は、厳密には「格」を表すと言えない面があるので、「特定性 specificity」を表すものとし、SPECというグロスをつける。

表２：限定詞

		SPECIFIC	ERGATIVE	OBLIQUE
Common nouns	SG	*ing, =ng*	*ning*	*king, keng*
	PL	*ding/ring, deng/reng*	*ring, reng*	*karing*
Personal names	SG	*i*	*=ng*	*kang*
	PL	*di/ri*	*ri*	*kari*

３．先行研究

カパンパンガン語の複合前置詞句のみを扱った研究はおそらくないが、いくつかの文献では、それらに焦点を当てた記述をしている。ここでは二点の先行研究を取り上げて説明する。

3.1. Forman 1971

Forman 1971は、カパンパンガン語の簡潔な文法概要である。3.4節がReferent, Time, and Locative Noun Phrasesとなっており、このうちreferent noun phrasesが、本稿で扱っている前置詞句と重なる。なお、*túngkul, túngkul king, túngkul kang*をFormanは‘because of’と記しているが、正しくないため、以下では修正した。

(10) Referent noun phrases (Forman 1971: 70)

para, para king, para kang	‘for, on behalf on’
túngkul, túngkul king, túngkul kang	‘about, regarding’
úli na, king úli na	‘for the reason that, because of’
ángga, ángga na king	‘up to, until’
bánda king	‘going towards’
imbés ke	‘instead of, in place of’
léle, léle ning	‘beside, at the side of’

これらのほとんどを以下のセクションで取り上げるが、純然なカパンパンガン語の表現とは言えないもの（例えば*imbés*など）もあるため、本稿ではそれらは扱わない。

3.2. Zorc 1992

Zorc 1992は、Kapampangan Readerというカパンパンガン語学習者のための読み物に付属する短い文法概説である。品詞を扱ったセクションの第６節がPrepositional Elementsと題されており、以下の３タイプに分類されている（Zorc 1992：xviii-xix）。取り上げられている多くの表現がFormanと重複する。以下、まずは、Zorcの記述通りに述べていく。

第１のタイプは、前置詞の後に斜格の*king*または*kang*が続く場合である（*king*は普通名詞に、*kang*は人名に用いられる）。

(11a)	*agpáng kang*	‘according to’
	anggá na king	‘up to, until’
	bandá king	‘going towards’
	búkud king	‘apart from, besides’
	ibát king	‘from; starting with’
	imbés king	‘than; rather than’
	inggíl king	‘about, regarding’
	lában king	‘against’
	lugál king	‘instead of’
	pára kang	‘for, on behalf of’
	tungkúl king	‘regarding, about’

第２のタイプは、*king* <preposition> *ning*というパターンをとる定型表現である（*ning*は能格の限定詞で、この構文では属格、すなわち英語の‘of’に相当する）。

(11b)	*king aráp ning*	‘in front of’
	king kilúb ning	‘inside, within’
	king lálam ning	‘under(neath)’
	king léle ning	‘besides, next to’
	king sumángid ning	‘on the other side of’

第３のタイプは能格の*nang*をとるものである。

(11c) *kalúpa nang* ‘such as, like’
kayábe nang ‘accompanied by’
úli nang ‘because of, due to’

ここでZorcは、with *nang*（or *neng* if a person is named）と書いているが、この*nang*と*neng*の説明は正しくない。表２にあるように、普通名詞と用いられる場合はningであり、人名ならば*nang*となる。この*nang*は、能格３人称単数代名詞*na*と単数人名につく限定詞＝*ng*の結合した形である。

本論文では、上で紹介されているものもふくめ、複合前置詞句の各表現のより詳細な記述を行い、FormanやZorcの記述を正す。

４．複合前置詞句の分類

まず、複合前置詞句を大きく二つのグループに分ける。文法的には、第一のグループはadjuncts（付加部）として位置づけられるものであり、第二のグループは、斜格*king*に導かれるarguments（項）の一つと見なされることが多いものである。実際、第二グループは、場所や空間に関わる表現である。ただ、常にこのような見方が正しいとも限らないので、ここでは、それぞれをＡ類、Ｂ類と呼ぶことにする。

いずれの類においても、しばしば見られる現象として、カパンパンガン語でPámanakmul Amánu ‘word swallowing’（Kitano and Pangilinan 2014）と呼ばれるものがある。これは、*king*などのような限定詞や代名詞が脱落する現象のことである。起きやすい場合、起きにくい場合があるようだが、どのような条件で起きるかは明らかでない。そのため、本稿ではこれを詳しく議論しない。

4.1. Ａ類

Ａ類は、副詞的な働きをする複合前置詞句である。これらを順に見ていく。意味の中心をなす語の後には、斜格（*king*など）または能格（*ning*など）の名詞句がくる。

4.1.1. According to

「～によれば」の意味で、以下の例のように斜格の名詞句が*agpáng*に続く。名詞句はモノでも人でもかまわない。モノか人か、単数か複数かによって、斜格限定詞の形が異なる。

(12) ***Agpang*** ***king*** *Biblia, ring* *Judio* *ila*
according.to DET.OBL.SG Bible DET.SPEC.PL Jew ABS.3PL
ring *tau=ng* *pinili* *ning* *Dios.*
DET.SPEC.PL person=LK selected DET.ERG.SG God
'According to the Bible, the Jews (they) are the chosen people of God.'

次の例では、斜格代名詞が所有代名詞（「～のもの」）として機能している。格を表しているわけではない。リンカーで別の名詞とつながることにより、二つの語が同格で並列的な構造を作っている（'yours, the enemies'）のである。

(13) ***Agpang*** ***kang*** *Jesus,* *luguran* *mo*
according.to DET.OBL.SG Jesus love.PERF.PV ERG.2SG+ABS.3SG
ring *keka=ng* *kasalang.*
DET.SPEC.PL OBL.2SG=LK enemy
'According to Jesus, love your enemies.'

次の例では、*ing*以下が名詞化されている、あるいは補文となっていると考えることができる。

(14) ***Agpang*** ***karing*** *mangatua,* *e* *mayap*
according.to DET.OBL.PL elder NEG good
ing *mamalis* *patie* *bengi.*
DET.SPEC.SG sweep.IMPF.AV when night
'According to the elders, it is not good to sweep (the floors) at night.'

4.1.2. Until

次に、'until, up to'といった意味を表すもので、*anggá（na）*OBLという形式をとる。ここで*na*は任意の要素であるが、「達成、到達」を強調するような意味を表す副詞である。時間表現と用いられれば'already'、否定表現と用いられれば'anymore'などに相当する。*anggá*と共起すると到達点を強調することになる。適当な訳をあてることが難しいので、ここではEMPH（emphatic）としておく。

(15) ***Angga*** ***na*** ***king*** *kilikili* *ing* *albug* *king*
until EMPH DET.OBL.SG armpit DET.SPEC.SG flood DET.OBL.SG
San Fernando.
San Fernando
‘The flood in San Fernando has now risen up to people's armpits.’

(16) *E* *ne* *tinuknang* *kiniak* ***angga*** ***na***
NEG now+ABS.3SG stop.PERF.AV cry.PERF.AV until EMPH
king *meko* *la.*
DET.OBL.SG leave.PERF.AV ABS.3SG
‘He never stopped crying until the time they left.’

4.1.3. Towards

次は、‘going towards’といった意味を表す前置詞句、bandá OBLである。

(17) *Korba* *me* *ing* *saken*
turn.PV ERG.2SG+ABS.3SG DET.SPEC.SG car
banda ***king*** *kaili.*
towards DET.OBL.SG left
‘Turn the car towards the left.’

(18) *Melakuan* *ya* ***banda*** ***king*** *Abacan.*
be.left.PERF.AV ABS.3SG towards DET.OBL.SG Abacan
‘He was left near/around Abacan (river).’

次の例では、*banda king*という句に代名詞が挿入された形になっているが、これは代名詞がsecond-position clitic（第二位置の接語）であるためである。このように接語はしばしば、句の連続性を遮断するように現れることがある。

(19) ***Banda*** *ya* ***king*** *lalam* *ning* *lamesa*
towards ABS.3SG DET.OBL.SG under DET.ERG.SG table
menabu *ita=ng* *baria.*
fall.PERF.AV that=LK coin
'The coin fell somewhere under the table.'

4.1.4. From

「～から」（'from, starting with'）は、斜格のみでも表すことは可能である。

(20) *Menabu* *ya* *keng* *taburete.*
fall.PERF.AV ABS.3SG DET.OBL.SG stool
'He fell down from the stool.'

しかし、より限定的に、*ibát OBL*を用いることもできる。

なお、限定詞*kang*は人名につくのが基本だが、次の例のように、「父」「母」のような人名に準ずるような語にもつくことがある。

(21) *Ikua* *ke* *ini* ***ibat*** ***kang***
get.PERF.PV ERG.1SG+ABS.3SG ABS.this from DET.OBL.SG
tatang *ku.*
father ERG.1SG
'I got this from my dad.'

4.1.5. Rather than

カパンパンガン語で、'rather than'という意味を表すのは、*liuas OBL / kesa OBL*である。

(22) *Mayap* *ne* *ing* *tuyu*
good now+ABS.3SG DET.SPEC.SG dried.fish
liuas/kesa ***king*** *susulapo* *a* *pugu.*
rather.than DET.OBL.SG fly.IMPF.AV LK quail
'A dried fish is better have than a flying quail.'

次の例では、斜格限定詞に*keng*という形式が用いられているが、意味は*king*と同じである。こ

の例では、名詞句の位置に節がきている。

(23) *Gagawan* *ke* *iti=ng* *diccionario*
make.IMPF.PV ERG.1SG+ABS.3SG ABS.this=LK dicionary
kesa ***keng*** *manalbe* *ku=ng* *t.v.*
rather.than DET.OBL.SG watch ABS.1SG=LK television
'I am making this dictionary instead of watching TV.'

（Turla 1999：189-190, 一部表記を変更している）

4.1.6. Regarding

Zorcの報告にある*inggíl king*は、カパンパンガン語では使わないようである。'about, regarding' の意味では、*dikil OBL*または*tungkúl OBL*が用いられる。*tungkul*よりも*dikil*の方が、重要な事柄について用いられる傾向があるようである。

(24) ***Dikil*** ***king*** *pamagtas* *ning* *panialiuan*
regarding DET.OBL.SG high.rising DET.ERG.SG commodities
ing *mapali* *ra=ng* *pisasabian.*
DET.SPEC.SG hot ERG.3SG=LK topic.of.conversation
'Their heated debate is about the rising prices of commodities.'

次の例で、*nokarin*はここでは 'where' の意味はなく、*tungkul king nokarin*で「何について？」と疑問を提示している。

以下の(25)(26)(27)は、一連の対話（作例）になっている。*tungkul*と*dikil*の違いを知ることができる。

(25) ***Tungkul*** ***king*** *nokarin* *ing* *pisasabian*
regarding DET.OBL.SG where DET.SPEC.SG topic.of.conversation
yu *nandin?*
ERG.2PL earlier
'What were you talking about earlier?'

なお、次の例で小辞*mu?*は第二位置の接語である。*tungkul king*の間に挿入されている。

(26) *Ala,* ***tungkul*** *muʔ* ***king*** *asaua* *na=ng* *Pedro.*
NEG.EXIST regarding just DET.OBL.SG spouse ERG.3SG=LK Pedro
'Nothing, it was just about Pedro's wife.'

(27) *Ah,* *bala* *ku* *sa* ***dikil*** ***king***
ah thought ERG.1SG PRT regarding DET.OBL.SG
meganap *a* *eleksiun.*
take.place.PERF.AV LK election
'Ah, I thought it was about the recent election.'

4.1.7. Against

「～に対して、反して」の意味では、*lában OBL*または*salang OBL*が用いられる。両者は完全に同義というわけではなく、意味・機能の違いは観察されるようだが、まだわからないことが多く、ここでは議論しない。

(28) *Sinambut* *ya* ***laban/salang*** ***king*** *droga.*
win.PERF.AV ABS.3SG against DET.OBL.SG drug
'He won (the campaign/crusade) against drugs.'

(29) *Magsalita* *ya* ***laban/salang*** ***king*** *pari.*
talk.IMPF.AV ABS.3SG against DET.OBL.SG priest
'He is talking against the priest.'

(30) *Ginaua* *ya=ng* *batas* ***salang*** ***karing*** *kalulu.*
make.PERF.AV ABS.3SG=LK law against DET.OBL.PL poor
'He made a law against the poor people.'

4.1.8. On behalf of

'for, on behalf of' の意味で用いられる*pára OBL*は、使う頻度も大きい。

(31) *Biklat* *de* *ing* *pasbul* ***para*** ***kekayu***.
open.PERF.PV ERG.3PL+ABS.3SG DET.SPEC.SG door for OBL.2PL
'They opened the door for you.'

(32) *Makasadia* *la=ng* *mate* ***para*** ***kang*** *Cristu.*
be.ready ABS.3SG=LK die.AV for DET.OBL.SG Christ
reni=ng *fanaticu.*
ABS.these=LK fanatic
'These fanatics are ready to die for Christ.'

(33) *Mangaddi* *ku* ***para*** ***kang*** *ápu* *ku.*
pray.IMPF.AV ABS.1SG for DET.OBL.SG grandparent ERG.1SG
'I am praying for my grandma.'

(34) ***Para*** ***kaninu*** *ini=ng* *pamagkasakit* *mu?*
for DET.OBL.who ABS.this=LK suffering ERG.2SG
'For whom are you suffering this for?'
(literally: 'For whom is this suffering of yours?')

(35) ***Para*** ***king*** *anak* *ku* *pu?.*
for DET.OBL.SG child ERG.1SG POL
'For my child sir.'

4.1.9. Just like

'such as, like' の意味を表すのは、*kalúpa ERG*である。これまでの諸例とは異なり、この前置詞句は、主要部（*kalúpa*）に能格が後接するタイプである。人名だと次のようになる。*na*は能格の代名詞で、*Cristo*と同一指示的である。

(36) *Mete* *ya=ng* ***kalupa*** ***na=ng*** *Cristo.*
die.PERF.AV ABS.3SG=LK like ERG.3SG=DET.ERG.SG Christ
'He died like Christ.'

人名ではない普通名詞の場合、次のようになる。ここでも能格の代名詞が出現している。

(37) ***Kalupa*** ***na*** ***ning*** *anak* *ku*
like ERG.3SG DET.ERG.SG child ERG.1SG
mete *la.*
die.PERF.AV ABS.3PL
'Like my son, they died.'

同じくこの意味で用いられるものに、*anti OBL*がある。

(38) *Melangi* *yang* ***anti*** ***king*** *rosas.*
become.dry.PERF.AV ABS.3SG=LK like DET.OBL.SG rose
'She withered like a rose.' (figurative)

*anti king*は、*anting*と縮約形で用いられることがある。

4.1.10. Accompanied by

'accompanied by, with' の意味で、*kayábe ERG*がある。この語根は*abe*（'companion, mate, friend'）である。以下では簡単にwithというグロスをつけておく。

(39) *Meko* *ya=ng* ***kayabe*** ***na=ng*** *Pedru.*
leave.PERF.AV ABS.3SG=LK with ERG.3SG=DET.ERG.SG Pedro
'He left with Pedro.'

4.1.11. Together with

'together with, along with' という意味で、*kambe ERG*が用いられる。*kayabe*と意味や形が似ているが、関係があるかどうかは不明である。*kayabe*よりもフォーマルな形式であり、祈りの場面などに使われるとのことである。以下の例も、宗教的なものである。

(40) *Ume* *kayu* ***kambe*** ***na=ng*** *Cristo=ng*
go.AV ABS.2PL together.with ERG.3SG= DET.ERG.SG Christ=LK
Guinu *tamu.*
Lord ERG.1PL.INC
'Go with Christ our Lord.'

(41) *Ing* *Guinu=ng* *Dios,* ***kambe*** ***na***
DET.SPEC.SG God=LK Lord together.with ERG.3SG
ning *Espiritu Santu.*
DET.ERG.SG Holy Spirit
'God the Father, together with the Holy Spirit.'

4.1.12. Because of

最後に、*úli ERG*を取り上げる。これも頻繁に用いられる前置詞句である。次の例(42)は対話形式（作例）になっている。

(42) *Ot* *mitauli* *ka?*
why late ABS.2SG
'Why are you late?'

Uli ***na*** ***ning*** *trapik.*
because ERG.3SG DET.ERG.SG traffic
'Because of the traffic.'

(43) *Mamako* *la* ***uli*** ***na***
leave.IMPF.AV ABS.3PL because ERG.3SG
ning *ayun.*
DET.ERG.SG earthquake
'They are leaving because of the earthquake.'

*uli*はまた、*uling*という形式で従属接続詞（'because'）としても使われる。

4.2. B類

次に、B類の複合前置詞句を説明する。場所・空間を表す前置詞句（locative/spatial prepositional phrases）である。代表的なものとして、以下のような例がある。

(44)	*king aráp ning*	‘in front of’
	king gúlut ning	‘at the back of’
	king kilúb ning	‘inside of’
	king lual ning	‘outside of’
	king bábo ning	‘at the top of’
	king lálam ning	‘under, underneath’
	king bibitísan ning	‘at the foot of’
	king léle ning	‘besides, next to’
	king sumángid ning	‘on the other side of, across’
	king uanan ning	‘on the right of’
	king kaili ning	‘on the left of’

これらの特徴として、Zorcによる分類の第2のタイプ、すなわち*king* <preposition> *ning*という構造であること、A類と同じく、Pámanakmul Amánu‘word swallowing’が観察されることがある。ただし、どのような条件でPámanakmul Amánuが起きるかは、まだわからない。

話し言葉データベース（少々編集を加えているが、物語や自然会話）からの実例をいくつか示す。

(45)	***King***	***lele***	***ning***	*bunduk*	*ating*	*dakal*	*a*	*tanaman.*
	DET.OBL.SG	side	DET.ERG.SG	mountain	EXIST	many	LK	plant

‘At the foot of the mountain there are a lot of plants.’

(46)	*Ating*	*metung*	*a*	*lalaki*	***keta=ng***	***babo***	***ning***	*tanaman,*
	EXIST	one	LK	man	OBL.there=LK	top	DET.ERG.SG	plant

‘There is a guy on top of the tree,’

上の(46)で、実際の発話は、*ketang babo a tanaman*すなわち、能格限定詞*ning*の代わりにリンカー*a*を用いたものであった。別の話者は、それを間違いと見なし、上のように修正した。しかしながら、能格を用いるかリンカーを用いるかで、揺れが生じている可能性がある。揺れが生じている別の例として、次のようなものがある。能格の*ning*もリンカーの*a*も、両方が可能であるという観察である。

(47) *king sumángid {ning/a} pangpang* ‘across the river’

次は、複合前置詞自体が述語になっていると考えられる例である。目的地となる自宅の場所を説明している場面である。

(48)	*E*	*ka*	*malili,*	***arap***	*ne=ng*	*nita=ng*
	NEG	ABS.2SG	get.lost.AV	front	ERG.3SG+ABS.3SG=LK	ERG.that
	maragul	*a*	*tanaman.*			
	big	LK	plant			

‘You will not get lost, it is in front of that big plant.’

ここで述語は、*(king) arap nang nitang maragul a tanaman*である（*king*はここでは省略されている）。この述語に対する主語（S）は*ya*であるが、代名詞は第二位置の接語であるため、すでに第二位置にある*na*と結合して*ne*となる。

(49)	述語	主語 (S)
	(king) arap ***<u>na</u>****ng nitang maragul a tanaman*	***<u>ya</u>***
	‘in front of that big plant’	‘it’

空間の語彙は時間表現にも用いられることがある。特に*lub*（‘inside’）は、時間の「以内」という意味で用いられる。

(50)	***Kilub***	***ning***	*pabulan*	*pilan*	*ka=ng*	*besis*
	inside	DET.ERG.SG	one.month	how.many	ABS.2SG=LK	time
	mumuli?					
	come.home.IMPF.AV					

‘Out of one month, how many times do you go home?’

kilubおよびkilualの語根はそれぞれ、*lub*（‘inside’）および*lual*（‘outside’）である。接頭辞のようにみえる*ki-*は、ひょっとすると*king*が縮約した形式かもしれない。実際に観察される変異形としては、以下のようなものがある。これらも、*king*や*ning*が脱落したPámanakmul Amánuを起こしている例である。

(51) *lub* (‘inside’)

king kilub ning, kilub ‘inside of’

(52) *lual* (‘outside’)

king lual ning, kilual, king lual ‘outside of’

５．おわりに

本稿では、カパンパンガン語にみられる複合前置詞句を網羅的に紹介した。Ａ類とＢ類に分類し、それぞれの特徴を示した。Ａ類は主にadjunct（付加部）として用いられる。Ｂ類は主にarguments（項）として用いられ、場所や空間を表す表現である。おのおのの複合前置詞句の用例、特徴などを紹介した。

略号一覧：

ABS	absolutive	AV	actor voice
DET	determiner	DU	dual
ERG	ergative	EMPH	emphatic
EX	exclusive	EXIST	existential
IMPF	imperfective aspect	INC	inclusive
LK	linker	NEG	negative
OBL	oblique	PERF	perfective aspect
PL	plural	POL	polite
PRT	particle	PV	patient voice
SG	singular	SPEC	specific
1 / 2 / 3	1st / 2nd / 3rd person		

謝辞：Marco NepomucenoとMike Pangilinanからは、多くのデータと意見をいただいた。しかしながら、データなどの解釈はすべて北野によるものであり、本論文の内容は北野が責任を負っている。

References

Forman, Michael L. (1971) *Kapampangan grammar notes*. Honolulu: University of Hawaii Press.

Kitano, Hiroaki, and Michael Raymon M. Pangilinan. (2014) Motivations for PÁMANAKMUL AMÁNU 'word swallowing' in Kapampangan. *Proceedings of the International Workshop on Information Structure of Austronesian Languages*, 171-182. Tokyo: Linguistic Dynamics Science Project, ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies.s (http://lingdy.aacore.jp/en/activity/is-austronesian/proceeding_informationStructure.html)

Turla, Ernesto C. (1999) *Classic Kapampangan dictionary*. Available from the author.

Zorc, R. David. (1992) Grammatical outline. *Kapampangan reader*. (Philippine language series) by Alma M. Davidson and Leonardo Aquino Pineda (Pamela Johnstone Moguet, ed.), ix-xxviii. Kensington, MD: Dunwoody Press.